

# 激動の経営

## 新本社工場設立

三明製作所は8月30日、愛知県春日井市で新本社工場の地鎮祭を開いた。10億円を投じ、2022年5月に完成予定だ。社長の谷口光雄は「特に開発を

強化し、信頼できる革新的な技術で課題を解決する企業を目指す」と狙いを語る。

父秀雄が創業した転造機メーカーの同社は1975年に名古屋から春日井市に本社工場を移した。光雄が大学を卒業して入社した翌年だ。同社初の営業マンとなった光雄は、現本社工場と共に成長し、課題解決提案で同社を国内シェアを6割のガリバーにした。新拠点での開発強化に「従来は不可能だった複雑形状の転造に挑

## 三明製作所

④

## 転造で変える未来



不可能と思っていたことに挑む…と谷口社長

む」と光雄は意気込む。ネジ中心から用途を広げ、切削や鍛造からの無駄やコストを減らす切り替えを狙う。主軸は2022年に発

売予定の新タイプ転造機「THI-ALEX（アレックス）」だ。海外と共同開発海外展開も強化す

## 無駄減らし脱炭素に貢献

る。21年4月の売上高16億円中、海外比率は1割。現在の販売代理店網を生かし「サービス向上ができるよう代理店教育を強化する」（光雄）方針だ。

ドイツや中国の有力大手ユーザーと転造での新加工技術の共同開発にも取り組む。「海外ユーザーからは日本人が考えもしないアイデアの相談が来る」と光雄。海外展開を加速し転造の可能性をさらに押し広げる。

コロナ禍で打撃を受けた業績を立て直しも図る。光雄が毎年定める1年のテーマを今年「想定外を想定する」とした。転造の用途拡大に加え、伸び盛りの転造金型（ダイス）事業もさらに強化。「売上高を3年内にコロナ禍前の20億円に戻す」とする。

### スマート化提案

新本社工場が稼働する22年は創業70周年の節目の年だ。将来に向けて、同社のあるべき姿も模索する。その一つがSDGs（国連の持続可能な開発目標）への取り組みだ。一例として新本社工場には太陽光発電システムを導入。空調費が節約できる仕様とするなど室内の設計にも工夫し、消

（この項おわり。編集委員・村国哲也が担当しました）